

こ

けんり

かん

# 子どもの権利に関する

いけん

きぼう

ちようさ

## 意見・希望調査



うえぶ あんけーと けっか ほうこく  
Webアンケート結果のご報告  
2022.10.19



# こ 子どものみなさんへ

きちょう かいとう

貴重な回答をありがとうございます!

みな

きちょう いけん

ほうこく

ここに皆さんからいただいた貴重な意見をまとめて報告します。

しめ

きちょう

ここに示していない重要なコメントもありました。

わたし

いりょう げんば

みなさま

いけん ほうこく

おも

私たちは医療の現場から、皆様のご意見を報告したいと思いまとめました。

ぜひ、みてくださいね!



# ほんけんきゅう 本研究について

## もくてき <目的>

うえぶ あんけーと こ けんり こ こま いけん ちようさ こ けんり まも しゃかい  
Webアンケートで、子どもの権利や子どもたちが困っていること、意見などを調査し、子どもの権利が守られる社会の  
しく と い こ こえ くに しく ほうりつ せいど かんが ひと こ  
仕組みづくりに取り入れてもらえるように、子どもたちの声を国の仕組み（法律や制度）を考える人たちや、子どもたち  
まわ おとな じょうほうはっしん けんきゅう もくてき  
の周りの大人に情報発信することが、この研究の目的です。

## たいしやう <対象>

にほんぜんこく しょうがっこう ねんせい こうこう ねんせい じどう せいと さい さい  
日本全国の小学校1年生から高校3年生の児童、生徒（6歳～18歳）

## ほうほう きかん <方法・期間>

ぐーぐる ふおーむ しょう うえぶ あんけーと ねん がつ にち  
Googleフォームを使用したWebアンケートを2022年1月20日～  
ねん がつ にち じっし  
2022年3月31日に実施しました。

## しゅうけいけっか <集計結果>

ねん がつ にち めい しょうがっこう ねんせい めい  
2022年3月31日までに、112名（小学校1～4年生：36名、  
しょうがっこう ねんせい めい ちゅうがくせい めい こうこうせい た めい かいどう え  
小学校5～6年生：16名、中学生：31名、高校生・その他：29名）から回答を得ました。









# こ けんり 子どもたちの権利について

- Q1.~Q3.のアンケート結果から、子どもたちの権利に関して、子どもたち自身が自分の権利に関し理解を深める取り組み、子どもを取り巻く社会、大人が子どもの権利の内容を知り、そして尊重し、医療や福祉などの限られた場面のみならず、普段の日常生活から子どもたちの気持ちや考えを聴く仕組みを作り、その意見を反映した仕組みづくりを行っていく必要性があります。



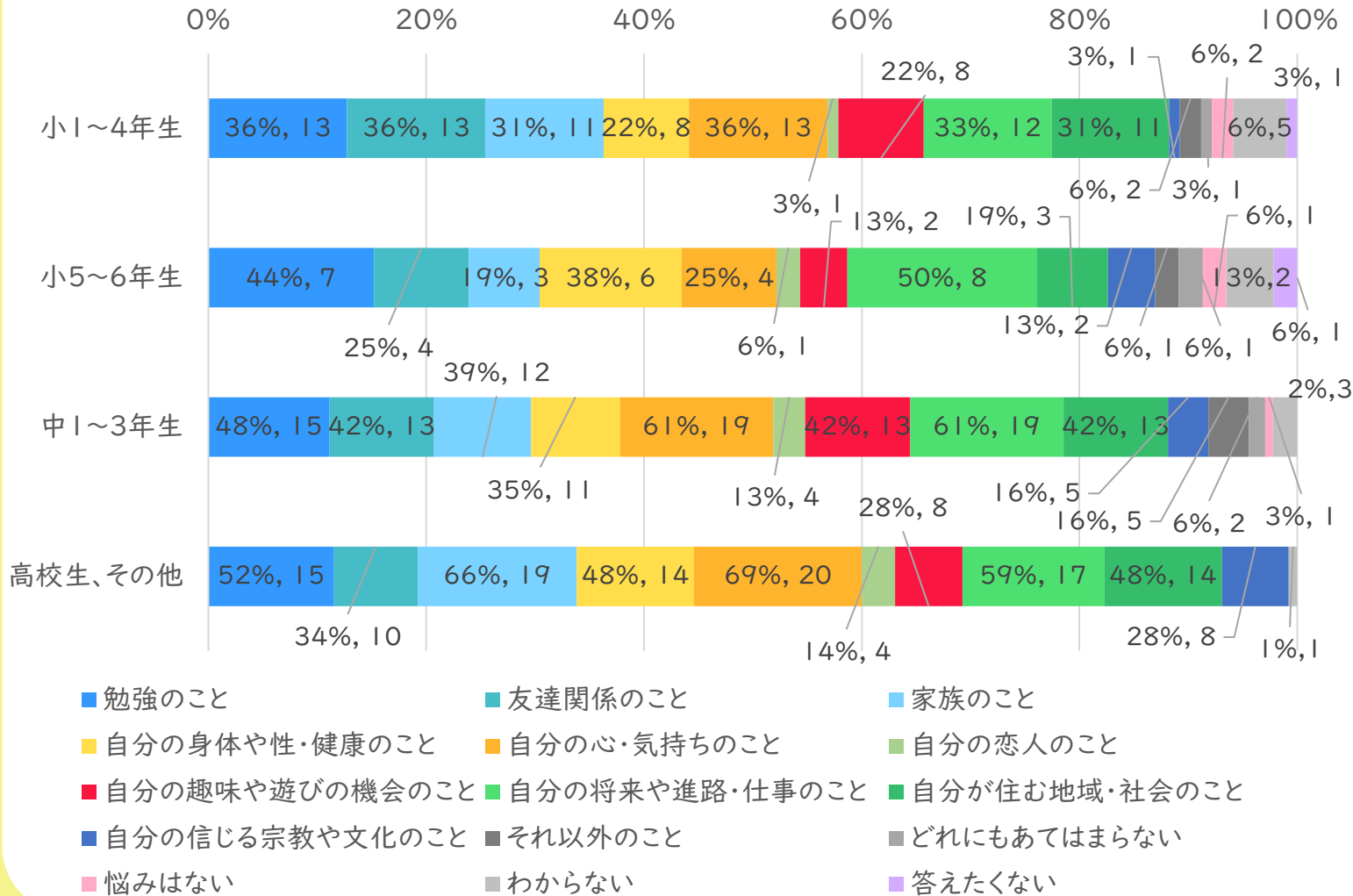








# Q7. 国<sup>くに</sup>の大人に子どもを大切に<sup>おとな</sup>するために<sup>こ</sup>考えて<sup>たいせつ</sup>ほしいこと<sup>かんが</sup>



いずれの年齢層<sup>ねんれいそう</sup>においても、自分の心<sup>しぶん</sup>や気持ちの問題<sup>こころ</sup>について考えてほしい<sup>きも</sup>と思っている子どもが多い<sup>もんだい</sup>ようです。<sup>かんが</sup>



# 自由コメント

Q7. そのほか、自由回答では以下のような意見が聞かれました(原文まま)。

いずれも子どもからの真剣な言葉ですので、原文のまま以下にご紹介致します。

① あなたの悩みや困りごとを解決するため、どのような変化があるといいか?

- なるべく怒らないように家族が変わればいいと思いました。
- 本当に辛い時にいつでも誰かと話ができる場所があればいい。  
どうしても家にいるのが苦しい時、逃げ場や居場所があったらいい。
- 出来ない難しい普通を目指させないで欲しい。
- 全ての子どもが平等に支援を受けられるようになればいい。親の収入制限で、このままだと高校は公立にしか行けない。
- 子ども選挙。あと、子どもが市議会とかで話せるようにする。
- 自分自身が変わらないと周りも変わらない、周りに期待しすぎないのがいいと思う。大人が子供の悩み事に干渉しすぎない方がいい、大人には分からない悩みが子どもには沢山ある、  
誰もが気軽に相談できる環境や場所。



# 自由コメント

① あなたの<sup>なや</sup>悩みや<sup>こま</sup>困りごとを<sup>かいけつ</sup>解決するため、どのような<sup>へんか</sup>変化があるといいか？ という<sup>しつもん</sup>質問に対して  
(前ページよりつづき)

・<sup>しょうがい</sup>障害や<sup>びょうき</sup>病気があるからって<sup>さべつ</sup>差別や<sup>くべつ</sup>区別はやめてほしい。先生からは「<sup>しえんきゆう</sup>支援級に通ってるあなたたちは、<sup>ふつうきゆう</sup>普通級の子  
と<sup>ちが</sup>レベルが<sup>い</sup>違うんです」って言われた。でも<sup>いっしょ</sup>一緒に<sup>まな</sup>学んだり、<sup>あそ</sup>遊んだりしたいんだよ。それって<sup>こと</sup>ダメな事なの？

・<sup>おとな</sup>大人からの<sup>こてい</sup>固定<sup>かんねん</sup>観念、<sup>き</sup>決めつけ、<sup>お</sup>押し付けをやめて<sup>ほ</sup>欲しいので、それを<sup>りかい</sup>理解するための<sup>おとな</sup>大人たちの<sup>まな</sup>学びを<sup>こくみんぜん</sup>国民全  
<sup>いん</sup>員(特に<sup>とく</sup>高<sup>こうれい</sup>齢の<sup>せいじか</sup>政治家)は<sup>か</sup>変わると<sup>おも</sup>よいと思う。

・<sup>しゃかいふくし</sup>社会福祉、<sup>しえん</sup>支援を含めて<sup>ふく</sup>子どもは<sup>ひと</sup>等しく<sup>びょうどう</sup>平等であることを、<sup>くに</sup>国には<sup>てってい</sup>徹底して<sup>ほ</sup>欲しいです。<sup>おや</sup>親の<sup>しよとく</sup>所得が<sup>ひく</sup>低い人ほど<sup>ひと</sup>支  
<sup>えん</sup>援が多いのは<sup>おお</sup>不<sup>ふ</sup>平等<sup>びょうどう</sup>と思います。<sup>おも</sup>親の<sup>おや</sup>所得が<sup>しよとく</sup>高い家の<sup>たか</sup>子どもは、<sup>い</sup>保護者への<sup>い</sup>経済的<sup>ほごしゃ</sup>依存度<sup>けいざいてきいぞんど</sup>が高くなり、<sup>たか</sup>かえって  
<sup>じりつ</sup>自立の<sup>さまた</sup>妨げになるのではないかと思います。<sup>おも</sup>国民すべての<sup>こくみん</sup>高等教育にかかると<sup>こうとうきょういく</sup>学費が、<sup>がくひ</sup>所得制限<sup>しよとく</sup>されることなく<sup>むしょう</sup>無償  
<sup>か</sup>化されれば、<sup>けいざいめん</sup>経済面・<sup>せいしんめん</sup>精神面において、<sup>こ</sup>子どもは<sup>おや</sup>親から<sup>じりつ</sup>自立できると<sup>おも</sup>思います。

・わたしのかわりに、だれか<sup>おとな</sup>おとなが、わたしの<sup>きもち</sup>きもちを<sup>ことば</sup>ことばにしてほしい。

・<sup>せいじか</sup>政治家が<sup>こ</sup>もっと<sup>かんが</sup>子どもの<sup>こと</sup>ことを<sup>ほ</sup>考えて欲しい。



# 自由コメント

✖

① <sup>こ</sup>子どもを<sup>たいせつ</sup>大切に<sup>しゃかい</sup>する<sup>かんが</sup>社会<sup>おとな</sup>づくり<sup>つた</sup>について<sup>なに</sup>考える<sup>な</sup>大人に<sup>な</sup>伝えたいことは何か？  
という<sup>しつもん</sup>質問<sup>たい</sup>に対して

・<sup>ひとり</sup>こどもを<sup>ひと</sup>一人の<sup>けいい</sup>人<sup>も</sup>として<sup>あつか</sup>敬意<sup>も</sup>を持って<sup>あつか</sup>扱って<sup>あつか</sup>ください

・<sup>わたし</sup>私は<sup>かていちょう</sup>こども<sup>さんせい</sup>家庭<sup>がんば</sup>庁に<sup>がんば</sup>賛成<sup>がんば</sup>です。<sup>がんば</sup>頑張<sup>がんば</sup>ってください。

・<sup>けいさつ</sup>警察<sup>じどう</sup>も<sup>そうだんしょ</sup>児童<sup>ほうち</sup>相談<sup>たすけ</sup>所<sup>たすけ</sup>も<sup>たすけ</sup>その<sup>たすけ</sup>まま<sup>たすけ</sup>放置<sup>たすけ</sup>で<sup>たすけ</sup>助<sup>たすけ</sup>けて<sup>たすけ</sup>くれ<sup>たすけ</sup>ない。

・<sup>こども</sup>子供<sup>かんが</sup>も<sup>かんが</sup>それぞれ<sup>おとな</sup>の<sup>おとな</sup>考<sup>そうぞう</sup>え<sup>そうぞう</sup>が<sup>そうぞう</sup>きちん<sup>そうぞう</sup>と<sup>そうぞう</sup>ある<sup>そうぞう</sup>し、<sup>そうぞう</sup>大人<sup>そうぞう</sup>より<sup>そうぞう</sup>も<sup>そうぞう</sup>想<sup>そうぞう</sup>像<sup>そうぞう</sup>力<sup>そうぞう</sup>が<sup>そうぞう</sup>ゆた<sup>そうぞう</sup>か<sup>そうぞう</sup>だ<sup>そうぞう</sup>か<sup>そうぞう</sup>ら、<sup>そうぞう</sup>それ<sup>そうぞう</sup>を<sup>そうぞう</sup>も<sup>そうぞう</sup>っ<sup>そうぞう</sup>と<sup>そうぞう</sup>国<sup>そうぞう</sup>の<sup>そうぞう</sup>未<sup>そうぞう</sup>来<sup>そうぞう</sup>に<sup>そうぞう</sup>活<sup>そうぞう</sup>か<sup>そうぞう</sup>す<sup>そうぞう</sup>よ<sup>そうぞう</sup>う<sup>そうぞう</sup>な<sup>そうぞう</sup>活<sup>そうぞう</sup>動<sup>そうぞう</sup>を<sup>そうぞう</sup>し<sup>そうぞう</sup>て<sup>そうぞう</sup>ほ<sup>そうぞう</sup>し<sup>そうぞう</sup>い<sup>そうぞう</sup>で<sup>そうぞう</sup>す!

・<sup>がっこう</sup>学校<sup>い</sup>に行<sup>い</sup>け<sup>い</sup>な<sup>い</sup>か<sup>い</sup>つ<sup>い</sup>たり<sup>い</sup>遅<sup>い</sup>刻<sup>い</sup>し<sup>い</sup>ち<sup>い</sup>ゃ<sup>い</sup>う<sup>い</sup>人<sup>い</sup>に<sup>い</sup>優<sup>い</sup>しく<sup>い</sup>し<sup>い</sup>て<sup>い</sup>欲<sup>い</sup>しい。<sup>い</sup>安<sup>い</sup>心<sup>い</sup>し<sup>い</sup>て<sup>い</sup>甘<sup>い</sup>え<sup>い</sup>たり<sup>い</sup>、<sup>い</sup>素<sup>い</sup>直<sup>い</sup>な<sup>い</sup>自<sup>い</sup>分<sup>い</sup>を<sup>い</sup>認<sup>い</sup>め<sup>い</sup>て<sup>い</sup>も<sup>い</sup>ら<sup>い</sup>え<sup>い</sup>たり<sup>い</sup>し<sup>い</sup>たい。<sup>い</sup>偏<sup>い</sup>

<sup>けん</sup>見<sup>けん</sup>の<sup>けん</sup>混<sup>けん</sup>じ<sup>けん</sup>つ<sup>けん</sup>た<sup>けん</sup>人<sup>けん</sup>権<sup>けん</sup>学<sup>けん</sup>習<sup>けん</sup>を<sup>けん</sup>や<sup>けん</sup>め<sup>けん</sup>て<sup>けん</sup>欲<sup>けん</sup>しい。<sup>けん</sup>も<sup>けん</sup>っ<sup>けん</sup>と<sup>けん</sup>発<sup>けん</sup>達<sup>けん</sup>障<sup>けん</sup>害<sup>けん</sup>や<sup>けん</sup>う<sup>けん</sup>つ<sup>けん</sup>病<sup>けん</sup>や<sup>けん</sup>思<sup>けん</sup>春<sup>けん</sup>期<sup>けん</sup>の<sup>けん</sup>子<sup>けん</sup>ど<sup>けん</sup>も<sup>けん</sup>の<sup>けん</sup>心<sup>けん</sup>理<sup>けん</sup>や<sup>けん</sup>H<sup>けん</sup>S<sup>けん</sup>P<sup>けん</sup>の<sup>けん</sup>特<sup>けん</sup>徴<sup>けん</sup>な<sup>けん</sup>ど<sup>けん</sup>を<sup>けん</sup>理<sup>けん</sup>解<sup>けん</sup>

<sup>ほ</sup>して<sup>ほ</sup>欲<sup>ほ</sup>しい。<sup>ほ</sup>学<sup>ほ</sup>校<sup>ほ</sup>に<sup>ほ</sup>行<sup>ほ</sup>く<sup>ほ</sup>の<sup>ほ</sup>は<sup>ほ</sup>当<sup>ほ</sup>た<sup>ほ</sup>り<sup>ほ</sup>前<sup>ほ</sup>な<sup>ほ</sup>ん<sup>ほ</sup>か<sup>ほ</sup>じ<sup>ほ</sup>ゃ<sup>ほ</sup>な<sup>ほ</sup>い<sup>ほ</sup>つ<sup>ほ</sup>て<sup>ほ</sup>思<sup>ほ</sup>つ<sup>ほ</sup>て<sup>ほ</sup>欲<sup>ほ</sup>しい。<sup>ほ</sup>助<sup>ほ</sup>け<sup>ほ</sup>を<sup>ほ</sup>求<sup>ほ</sup>め<sup>ほ</sup>ら<sup>ほ</sup>れ<sup>ほ</sup>た<sup>ほ</sup>ら<sup>ほ</sup>も<sup>ほ</sup>っ<sup>ほ</sup>と<sup>ほ</sup>真<sup>ほ</sup>剣<sup>ほ</sup>に<sup>ほ</sup>聞<sup>ほ</sup>い<sup>ほ</sup>て<sup>ほ</sup>欲<sup>ほ</sup>しい。

・<sup>わたし</sup>私<sup>わたし</sup>た<sup>わたし</sup>ち<sup>わたし</sup>は<sup>わたし</sup>み<sup>わたし</sup>な<sup>わたし</sup>さ<sup>わたし</sup>ん<sup>わたし</sup>が<sup>わたし</sup>思<sup>わたし</sup>つ<sup>わたし</sup>て<sup>わたし</sup>い<sup>わたし</sup>る<sup>わたし</sup>よ<sup>わたし</sup>り<sup>わたし</sup>物<sup>わたし</sup>わ<sup>わたし</sup>か<sup>わたし</sup>り<sup>わたし</sup>は<sup>わたし</sup>よ<sup>わたし</sup>い<sup>わたし</sup>で<sup>わたし</sup>す。<sup>わたし</sup>私<sup>わたし</sup>が<sup>わたし</sup>怖<sup>わたし</sup>い<sup>わたし</sup>こ<sup>わたし</sup>と<sup>わたし</sup>が<sup>わたし</sup>聞<sup>わたし</sup>こ<sup>わたし</sup>え<sup>わたし</sup>た<sup>わたし</sup>り<sup>わたし</sup>無<sup>わたし</sup>気<sup>わたし</sup>力<sup>わたし</sup>に<sup>わたし</sup>な<sup>わたし</sup>つ<sup>わたし</sup>た<sup>わたし</sup>り<sup>わたし</sup>(<sup>わたし</sup>つ<sup>わたし</sup>ま<sup>わたし</sup>り<sup>わたし</sup>抑<sup>わたし</sup>う<sup>わたし</sup>つ<sup>わたし</sup>状<sup>わたし</sup>

<sup>たい</sup>態<sup>たい</sup>)<sup>たい</sup>に<sup>たい</sup>な<sup>たい</sup>つ<sup>たい</sup>た<sup>たい</sup>り<sup>たい</sup>し<sup>たい</sup>た<sup>たい</sup>と<sup>たい</sup>き<sup>たい</sup>学<sup>たい</sup>校<sup>たい</sup>に<sup>たい</sup>イ<sup>たい</sup>ケ<sup>たい</sup>イ<sup>たい</sup>ケ<sup>たい</sup>行<sup>たい</sup>う<sup>たい</sup>ん<sup>たい</sup>で<sup>たい</sup>は<sup>たい</sup>な<sup>たい</sup>く<sup>たい</sup>つ<sup>たい</sup>て<sup>たい</sup>病<sup>たい</sup>院<sup>たい</sup>に<sup>たい</sup>連<sup>たい</sup>れ<sup>たい</sup>て<sup>たい</sup>行<sup>たい</sup>つ<sup>たい</sup>た<sup>たい</sup>り<sup>たい</sup>助<sup>たい</sup>け<sup>たい</sup>て<sup>たい</sup>ほ<sup>たい</sup>し<sup>たい</sup>い<sup>たい</sup>で<sup>たい</sup>す。

# 自由コメント

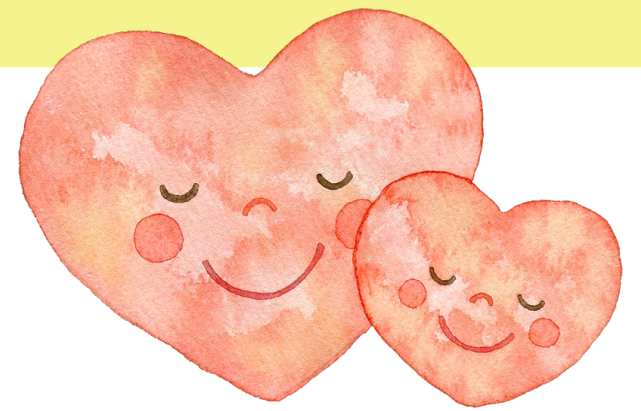


① ① こ子どもを大切にする社会たいせつづくりについて考える大人しゃかいに伝えたい  
ことは何か?という質問かんがに対しておとな (前ページよりつづき)

こども・子供には子供の世界、社会があるので大人が決めても的はずれな事が多いです。コロナで子供が犠牲になる事がよく見えました。子供の事は子供の案を入れるべきです。

がっこう・学校で配られる資料も、コンビニなどのトイレに貼られているポスターも、子供の悩みに寄り添おうとする大人の素こども ばら たいど 晴らしい態度がいつも優しさを感じさせてくれます。それでも悩みを抱える子が多いのは恥ずかしい、相談して大丈夫なのか、そもそもそのような団体の取り組みを知らない、という問題だと思います。それに対して一番の解決策だと思おも 思うのはやはり、保育園、幼稚園、小学校、中学校の先生の観察だと思います。そして、親を追い詰めることのない十分な休みと、楽しみだと思います。学校の先生方の次に身近な地域の方々の観察です。イベントごとを積極的に開かいさい 催し地域の交流を深めるのは行き詰まった視野や感覚を元に戻す力があると思います。虐待がなくなりますように。そして、自分の悩みを相談できる子が増えますように😊

# まとめ



こんかい うえぶ あんけーと めい こ きちよう かいとう  
今回はWebアンケートで112名のお子さんからとても貴重な回答をいただきました。

わたし ばめん にちじょう なか こ きも かんが き そんちよう いけん はんえい ちいき  
私たちは、あらゆる場面でありふれた日常の中から子どもの気持ちや考えを聴き、尊重し、その意見を反映した地域、

しゃかい ひつよう こ けんり しゅたい し おとな にんしき  
社会をかたちづかっていく必要があります。そのためにはまず、子どもが権利の主体であることを知り大人が認識し、そ

けんり じゅんしゅ ぐたいてき かにい きょういくばめん じちたい くにぜんたい ぐたいてき かんが こうどう うつ  
の権利を順守するための具体的ななかかわりをご家庭、教育場面、自治体、国全体でより具体的に考え、行動に移して

ひつよう ぐたいてき かく じちたい こ じょうれいとう せいいてい せいいてい こ いけん はんえい  
いく必要があるでしょう。具体的には、各自治体における子ども条例等の制定、その制定に子どもの意見を反映させる

こ あどぼけいと せっち こ せんよう そうだんまどぐち せっち えびでんす のっと せいさくていげん こ しんくたんく  
こと、子どもアドボケイトの設置、子ども専用の相談窓口などの設置、エビデンスに則った政策提言（子どもシンクタンク

など）などが期待されます。



(イラスト:水彩の挿し絵屋さん(ふじたかなこ)さんより)